序

薬師寺は天武天皇の発願により白鳳時代に建立され、和銅３年（710）の平城遷都に伴い養老２年（718）に現在地に移されました。

平安時代以降は火災や震災、兵火等による堂塔の焼失と復興を繰り返し、廃仏毀釈や農地解放で寺地は狭小化し、戦後には主要伽藍を構成する建造物は、東塔と東院堂の他、旧金堂などの数棟が建つのみとなっていました。

このような状況の中、薬師寺は昭和40年代以降、お写経勧進による伽藍の復興をすすめ、昭和51年に金堂、北西僧房を復興し、以来北東僧房、西塔、中門、回廊、大講堂と復興しています。

今回の食堂発掘調査では、基壇外装の一部である地覆石や階段の下部、さらに基壇周辺で石組の雨落溝と石敷が検出され、薬師寺食堂は、桁行11間、梁行４間の礎石建物で、基壇は東西が47.1m、南北が21.6mの規模であることがわかりました。

近い将来、史跡薬師寺旧境内保存整備基本計画並びに発掘調査に基づき、白鳳伽藍の復興の夢に向けて食堂の再建を進めたいと願っております。

平成25年３月

法相宗大本山　薬師寺

管主　山田法胤